

## 【パネルディスカッションでの討議内容】

- 勝田氏：それではみなさん、お集まりいただきましてどうもありがとうございます。
- 本日このパネルディスカッションのコーディネーターを務めさせていただきます八千代エンジニアリングの勝田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 私の出身は神奈川県伊勢原市というところでございます。
- 会社は八千代エンジニアリングということで、こういったまちづくりの計画、或いは、土木施設や建築などの設計や環境の調査などを行い、国や行政の支援業務というものを主な業務として行っております。
- 私はこれまで全国のいろいろなまちづくりですとか、先ほどの相島様の講演のようにありました公共と民間が一緒になったような開発事業のコーディネイトをやったり、市民さんと一緒になって図書館の計画を作ったりして携わってきました。
- 安城市さんとは、昨年この拠点施設の基本計画を作り上げるということで支援させていただいておりまして、本日その概要と今後どのような形で展開していくかというところを今年度いっぱい頑張りたいと思います。
- 本日、このパネルディスカッションのテーマにつきましては、「中心市街地拠点施設の整備の方向性」というテーマで5名のパネリストの方にお話を伺いたいと思います。
- それでは、先ほど司会の方から簡単な説明がありましたけれど、最初に菅野先生の方から自己紹介ということで簡単なプロフィール紹介をお願いします。
- 菅野氏：みなさんこんばんは。高いところから座らせていただきますが、よろしくお願いいたします。
- 私は、愛知淑徳大学の文学部にございます図書館情報学科というところで教鞭をとらせていただいております。本学科はいわゆる図書館がもつ情報提供機関で役に立つ人材育成というのを目標としておりまして、その中で学生達に図書館の実習を経験させる授業があります。それを担当していることもありまして、愛知県下のいろんなところの図書館で委員をさせていただいております。
- 今回、安城市さんの新図書館基本計画策定委員会の会長をさせていただくということで大変緊張しておりますが、今後いろいろなかたちでご報告させていただきますが、皆様のご意見をお待ちしております。あわせてよろしくお願い申し上げます。
- なお、私の今の研究テーマは、いわゆる図書館、美術館、所蔵資料、図書や歴史資料、美術資料、郷土資料などのデジタル化を考えております。そういうことについてもこの委員会でお役に立てればと思っておりますし、日頃お世話になっております安城市の図書館の方々にもお礼方々ということで何かお力になればと思ひまして力不足ではございますけれども努めさせていただこうと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。
- 勝田氏：続いて相島様お願いします。
- 相島氏：どうも先ほどは失礼しました、相島でございます。よろしくおねがいします。
- 略歴につきましては先ほど紹介がありましたが、日立グループの関連の工場の建設資金の融資といったものから不動産の商売に入りまして、バブルが崩壊した後、先ほどお話ししました定期借地権を活用した建物賃貸借、こういった実績を重ねて今回5,6年前からですね、デベロッパー商売を始めました。こういった民間と官公庁、自治体とのコラボで施設を作っていく、ということは昔では考えられなかったんですね。やはり自治体さんの敷居が高いです

とか、それが近年になってご理解いただけるようになってきて、非常にいい形でいい施設が出来るようになってきた、ということでございます。こういったいい流れの中で今回の施設がいろいろ出来ればな、と思っております。

今日は民間のデベロッパー事業者として、ご参考になるお話が出来ればと思っております。よろしく願いいたします。

○勝田氏：坂田様お願いします。

○坂田氏：安城学園高等学校の校長の坂田でございます。

隣の鶴田さんから20年位前にまちづくりに関わってもらえないか、ということでまちづくりに関わっています。ちょうど安城学園をいい学校にしたいと頑張ってた時期なんですけども、まちを見るとまちが学校の機能を失くしてきている、本来まちはもう一つの学校であるはずなのにまちが学校でなくなっている、コミュニティが解体していると、これはいかんなと思っまちづくりに参加しました。

本当に今、子ども達にとって、大人になりにくい、本当は大人になっていく時にいろんな人と触れないと、大人になれていないと、未来に向かってこんな社会をもう少しきちんとした社会に戻してやる必要があると思っております。

今回の更生病院跡地の問題も僕はそういう問題としてみんなで考えた方がいい、私達が未来の子ども達へどんなものを残してやるのか、それが僕達に問われていると思っております。そんな思いでパネラーとして短い時間ですが発言したいと思っております。よろしく願いいたします。

○勝田氏：続いて鶴田様お願いします。

○鶴田氏：こんばんは、まちづくりAnjōの事務局長の鶴田でございます。

私は商店街で生まれて、商店街で育って、今も商店街に住んでおります。親も商売をしておりましたので、お店の奥に食卓があり、お店の二階に寝泊りしておりました。ですから、子どもの頃からまちに育てられ、怒られ叱られ褒められ、女の子と歩けば冷やかされ、そういった濃密なコミュニティの中で育ってまいりました。

この安城市というのは先人達が開墾して出来た恩恵を受けて、我々暮らしておるわけですが、今商業者という視点もありますけれども、住民としてですね、先ほど先生もおっしゃいましたけども、子ども達、また、子孫にどんなまちを残していけるのか、先人達が我々に残してくれたように、我々は未来の子ども達のために何を残せるのか、まちの仲間達と日夜勉強したり議論をしております。

まちづくりAnjōの中に中心市街地拠点施設検討委員会を2月に作りまして、6回ほどの会議を重ねてまいりました。まだ途中でございますが、今日はその一部でも発表できればなど、参加させていただいております。よろしく願いいたします。

○勝田氏：続いて神谷市長様お願いします。

○市長：安城市長の神谷学でございます。

本日は多くの皆様方にこのフォーラムにご参加いただきまして誠にありがとうございます。

私は平成15年の2月に市長に初当選させていただきました。気が付けばもう6年と4ヶ月たったということになります。

更生病院でございますけれども平成14年の春に郊外に移転いたしております。市長に就任したのが、更生病院が移転後1年たった頃でございます。よって就任早々、非常に頭を痛めましたのが、中心市街地に空き店舗が非常に多くなって、そこに風俗店がどんどん進出してくるのではないかと、どうすんだ、ということでございます。安城学園高校の坂田先生には、いろいろとご迷惑やご心配をおかけしたと思います。その後平成17年4月からだと思いますが、安城市は第7次総合計画と呼んでおります新しい10か年の長期計画をスタートしております。目指すべき都市像を、「市民とともに育む環境首都あんじょう」といたしまして、現在環境首都、生活環境日本ナンバーワンを目指しております。その10年計画の中で、中心市街地の抱える問題を総合的に解決を図っていききたい、そういうつもりで頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

○勝田氏：それでは、この5名の皆様とともに今回のテーマにそっていろいろご意見を伺っていききたいと思います。

まず、先ほど市のほうから今回の計画素案の説明がありましたが、もう一度この事業、どういった事業であるか私なりに整理してみますと、まずこの事業というのは、まちを元気にしていくためにその機能の一つとして行政としては行政の土地を使って、図書館という公共サービス機能を整備していこうと、これによってたくさんの人が図書館という誰でもいつでもどんな方でも自由に出入りできるという施設ということで、まずは図書館という公共サービスを建てていこうと、これを核にして民間施設を公共サービスと呼応したもので誘導していきながら、ここにまちの核をつくり、それによって中心市街地を元気にしていくことが今回の事業の目的になっているのかなと思っております。

パネリストのみなさんのそれぞれのお立場を踏まえて、この拠点施設についてどんなイメージ作りができるかどうかについて、もう一度順番になりますけれども菅野さんのほうからお話できますでしょうか。

○菅野氏：新図書館基本計画策定委員会の会長として図書館という側面からお話させていただきますと思います。

まず、今回の中心市街地拠点施設の中で図書館に白羽の矢がまいりましたのはどうしてかということでございます。皆さん図書館とお聞きになるととても静かな公園の中で邪魔にならないような騒音とはかけ離れたところで、隔離されたようなイメージをお持ちではないでしょうか。人々が行きかうようなところにあるのは想像がつかないと思っていられるのではないのでしょうか。ただ、今、時代が変わっております。

今回の図書館、現在の安城市の図書館は非常に努力されておまして、年間44万という利用者があるという報告がされておまして、サービスの点でも努力されている。この努力は、日本のレベルの中でも上のほうから数えた方がいいくらいであります。こういった図書館をにぎわいの中に何で持ち込むのかというお考えもあるかもしれませんが、図書館は多くの方々、年齢・性別・職種を超えた人々が、訪ね、学び、調べ、集い、いろいろなことを考えていただく場であると思います。人々が集まる、集まってくる場として、そこへ人々が来る途中の動線の所に、例えばレストランがあってもいいでしょう、書店があってもいいでしょう。いろんな商業施設を通して、あるいは、図書館の帰り道に通ってもいいんじゃないでしょうか。実はこういった集客力をもった公共施設であるのが図書館であるということ。

国内や海外の事例をいくつか紹介したいけれども、いらっしゃればいいというのであれば、本を貸し出して、返すということの素通りであつたら何の役にも立ちません。集客というのはそこに滞在していただかないといけない場所だと考えております。そうなりますと図書館は居心地が良くないといけない。ゆったりとした椅子やBGMが流れててもいいんじゃないでしょうか。

例えば、日本で一番貸出数が多い浦安市の事例なんですけれども、図書は書店よりも美しい本が並んでおります。数年前にカフェを増設いたしました。図書館に飲み物を持って入る、ということは、大切な本が汚れてしまうとお思いでしょうが、貸出用の本を持ってカフェで読んでよければ、その本を借りる、という場面を作りました。カフェにはドアがありません。こういった視点を少しずつ変えてきている、滞在型へと変わり、その周辺にも滞在していただく。

次に2つめ、書店で有名な神田神保町がある千代田区は、上に国の機関、下に区役所、真ん中に図書館が2層で入っております。この千代田区立の図書館には、コンシェルジュといって、ホテルでいうところの何でも聞いてもらう、案内できる、専門的なことにも対応できる人を配置しております。例えば、このコンシェルジュが旗をもって、神保町のまち案内をしているサービスもごございます。図書館が地域に貢献していくという事例も増えてまいりました。

また、岡山というところ、地域の情報という点で、学ぶということがありますが、公共図書館としての使命として地域を知ってもらう、愛してもらうきっかけを図書館が提供していくことがあると思います。岡山は桃太郎というキーワードがありますが、桃太郎というキーワードで銅像やストーリー、音楽をデジタルで検索できる、そういうものを図書館で提供しています。まさに岡山を愛する人々を作ろうとしています。

それから最後に、ついこの間行ってきました海外のオランダのデン・ハーグというところは、デパート並んでいる大通りのところに普通に建っているわけですが、そこでは、入り口で若い人が待っていて、「何をしているのか、新しいサービスなのか」と聞いたところ、「そうなんです。ここで出会いを作るんだ」と言っていて、「どんな出会いを作るんですか」と聞いたら、「例えば、日本に行きたいという人がいたら、日本に行った人を図書館に登録しておいて、二人を出会わせて、情報交換をしてもらう、そういうお手伝いをしたいと思っています。」と、「それは図書館の仕事なんですか」、「図書館を通じて、日本に関する本を借りたいとか、調べたいということにつながるからだ。ここが、人々が行き交う大通りにあるからこそ可能なんだ」と聞きました。

このようにいろいろな事例がごございますけれども、人々が訪ね、集い、学びそして考え、地域のこと知って地域を愛するきっかけというのを公共図書館ができれば、それが今回のこの中心市街地拠点施設のにぎわいに大きく貢献できることと思っております。私見でございますけれども、事例を沿えてご紹介させていただきました。

○勝田氏：ありがとうございます。続いて相島さん、先ほど詳しい土地の利活用についてご講演いただきましたけれども、繰り返しになるかもしれませんが、公共サービスと民間サービスの複合した拠点がまちに活気を与えていく、具体的に想定されるもの、もう一点は、この会が始まる前に1時間ほどまちを見ていただいて、事業者さんから見てどのように映ったか、を聞いてみたいと思います。

○相島氏：ちょっと話をさせていただきます。民間事業者として公民複合施設がまちの活性化にどうプラスになるのか、具体的にというお話でありました。

先ほど説明しました綾瀬市では、今回の公民複合施設は、若干横に広がっているというか、市役所の近くに商業施設をつくり、そこに新たに中心市街地を作ろうということで、まだまだ作って4年ですけども、作る前平成16年と作った後の平成19年の資料を見てみますと、年間の小売販売額は26億8千万円程度伸びていると、いわゆる綾瀬市の周辺に流出していた小売が戻ってきた。小売が伸びてきているというのは人が戻ってきているということで、にぎわいも戻ってきているということになります。付随してこの施設の周りに飲食、焼肉屋・スパゲティ屋などが入ってきた。街道沿いには車屋さんとかがきた。その後ろに住宅地が再開発事業ということもあり、住宅地がどんどん入ってきている。それまでは、畑や荒地だったところが、どんどん日を追ってまちが形成されていくというのを感じました。

その次にコミュニティということで、地元の祭り、中心地であるうちの施設の平面の駐車場でゆったりということで、住民の中でのコミュニティの活性化、いわゆるまちの活性化につながっている。こういったものを考えますと官民の複合施設、へそとして中心部分は大変重要であると考えております。

併せて、事業者からの立場から申しますと、事業者は商売でやっております。ある程度事業者の利益というものを考えながらこういった計画を進めてもらえたらと思います。だから公共は騙されてではなく、適正な利益を生むようにしていただくのに、この辺はコンサルが事情をよく解っておられるので、上手に設定していただければ、最終的に施設のクオリティにつながると思います。クオリティというのが、民間事業者の事業の継続につながるというわけです。綾瀬にしましても商業施設棟は20年、住居棟は50年土地をお預かりしております。これらをずーとやっていくためには、きちんとした形でないと継続できない。皆様が練って練りこんだコンセプトに基づいて作った施設を継続させるには、民間事業者の事業の継続が必須であるということご理解いただきたい。

つまり、何が言いたいかと申しますと、作るまでの間、もしくは出来上がるまで、地元の皆さんと我々と自治体の皆様の連携ではございません、出来上がった後、核となる今回のこの施設の周りがどうなっていくのかこれを計画立てていかなければ最終的にはまちづくりには繋がっていきません。一ついいますと、先ほど現場を見てまいりまして、思いましたのは車の動線ですね、商業者からみると、確かに鉄道の駅に近い場所ですけども、車でのお客様が大半だと思います。要は女性の方が施設へ車で入ってくるのに安心して来れる動線が必要、また、止めやすい駐車場、最後に出やすい動線が確保できないと、どんなにいい民間施設、公共施設があっても駐車しにくいところよりも止めやすいところに行ってしまうことが予想される。当初の外溝を決めるあたりから知恵を出し合って、或いは、コンサルとの話し、我々のような現場を知る事業者の意見とかを参考にしていくのが良いと思います。

それと、その土地の価値が上がります。事業者を呼ぶ前のところから一緒にお考えになり、良い建物、良い施設を作るには、良い地形を作るということをお考えになっていただきと思います。建った後は、市の担当と一緒にまちづくりも考えて、地元の商業団体さんとか町内会さんと考えていくということで、皆さんのお力お知恵を借りて継続させる場を作っていただけたらと思います。

また、入札の考え方なんですけれども、従来の公共の入札の考えではなく、賃料地代が高ければいいという考えではなくて、出来上がってまちづくりをこれからずーとやるパートナーを、信頼できるパートナーを選ぶ、事業者を選ぶコンペということをご理解いただきたい。あともう一点でございますけれども、公民複合施設にマッチする民間の用途でございますけれども、権太坂でいいますと官で住宅を民は何を考えるかということやはりスーパーマーケットですとかになります、官の施設を補った形、のものを考えることを重視するという。今回の図書館と連携するものという、カルチャーセンター、大型ブックセンター等々。福

祉センターなんかですと、健康面からいうとフィットネスとか健康センターみたいなもの。しかしこういう時期ですのではなかなか厳しいですね。ですから自治体さんも皆様の意見を伺いながら練って練って練りこんでコンサル等の意見も聞きながら作り上げていってもらいたいと思います。

こういった中で事業者からお願いしたいのは、プランをきちんと作ることとスケジュールですね、施設のピンポイントではなくいついつまでにこういったことをする、余裕のあるスケジュールを立て、コンペを実施し、良いパートナーを見つけてよいまちづくりにつなげていってもらいと思います。以上です。

○勝田氏：ありがとうございました。続いて、坂田さんですが、学校の校長先生でもありますし、様々なまちづくりの活動にも関与されておりまして、そういった点からコメントいただきたいと思います。

○坂田氏：今回の施設のポイントは、先ほども言いましたが、未来の子ども達に何を残すのか、そして未来の安城に何を残していくのか、それが私達に問われているとっております。

子ども達にとって大事なものは、何かといたら2つです。風景とワクワクです。まず、風景が壊れていたら子どもは育たない。だから美しい風景、美しい夕日の風景だとか、美しい青空だとか、木々の緑だとか、そういう風景を子どもに見せる必要がある。命の生きている様子、そういう様子を子ども達に見せる必要があるんです。そして人々が助け合って一生懸命生きて働いている姿を子ども達に見せる必要があるんです。そういう姿が今、日本は失われてきているんです。

先ほど市長さんが言われましたけれども、僕達が、まちづくりあんじょう市民会議がなぜ風俗店に反対しているのか、そういう風俗店の風景は安城にいらないと思っているからです。明日285回目のパトロールをしますけれども、私達が未来にどんな風景を残す大人かが問われているんです。その風景でどんな子どもが育つか、子どもが上手く育っていないというのは、風景を壊しているからだと思うんです。そういった意味でこの中心市街地、更生病院跡地に何を残すかというのはものすごい大事なことです。そういう意味でも風景なんです。

もう一つは、ワクワク感です。子どもは何にワクワクするかです。僕は集客よりもワクワク感です。人がドンだけ集まるかよりも集まった人達がそこでワクワクするかどうかです。それは何が大事かというのは挑戦することだと思います。挑戦して挑戦して何が出来たか、失敗しても次にまた挑戦する気概を持たせるという、そういう子ども達を育てていきたいんですよ。そういう場所になれるかどうかです。安城のまちが、中心市街地が、次はやっぱり希望です。未来です。未来が自分が生きていくときに、人に貢献して生きてくれるかどうか、人に頼られて生きていけるかどうか、人の役に立つかどうか、ものすごい大きいんです。そういう意味で祭りとかまちづくりってとっても大事なことです。

3つめはやはり、友と一緒に生きるかどうかです。一人ぼっちじゃ絶対ワクワク感なんかでないです。そういう意味でたくさんの子供が挑戦する、大人が挑戦する、仕事がある、未来に向けていいこと言う、共同作業ができる、こういったことが僕らのポイントだと思ってました。僕らが中心市街地で最初考えていたのは大学です。大学がいいなと思っていました。それは、昼も夜も、午前も午後もいろんな人が学んでいる、米百俵の精神はとっても大事なことですよ。今一番大事なものは教育なんです、僕らが一番考えているのは、今、日本がダメなのは教育をないがしろにしているからだと思うんですよ。そういう意味で知の拠点をつくる、学びの拠点が必要なんです、僕に言わせれば。学びっていうものは、今言ったようにいろんな挑戦ができるんです、未来に向かって、どういった社会が出来るか考えれることなんです。そして友達と一緒に話しかけることもできる。そういう意味で僕は図

書館でもいいんですよ。図書館でもいいんですが、やってはいかん図書館は、居るところがないから図書館に居るとか、何か調査するためとか、そんな図書館ではなく、本屋みたいな何かワクワクする図書館でないとダメなんです。先ほど先生がおっしゃたコーヒーが飲める、レストランがある、そこに行けばワクワク出来る、本が嫌いな子もそこに行ったら、本が並んでいる、本を薦められた、本を読んで世界を知る、本を通じてワクワクする、自分の成長につながるようなそんな図書館、そういうのが必要だと思いますね。大学っていうのは、今市長さんがフライブルクにいかれて、環境首都を打ち出していますけど、この時私は拍手を送りました。環境首都というのはものすごい大事なことですよ。哲学なんですよ、環境を大事にするというのは。そういうことを考えた時には、森があり、せせらぎがあり、にぎわいがあり、広場があり、その広場の中にマーケットがあり、そのマーケットに集う人達をみんなが見守るといこと、オープンカフェで、そういうようなヨーロッパ型の広場文化、是非大学を、フライブルクみたいな大学のまち、学びのまちみたいな、誘致できなければ安城コミュニティ大学と名づけて建物を作って、その一角に図書館をつくるのもいい。

考えるのは、とにかく知の拠点、学びの拠点を作るといこと、何かワクワクする拠点を作るといこと、ゲームをやってワクワクするんじゃないくて、自分が成長する、人として成長する、人と一緒になって成長できるそんな拠点にした方がよいと思っております。以上です。

○勝田氏：ありがとうございました。鶴田さんお願いします。

○鶴田氏：中心市街地活性化を業務としているということで、わかりにくい仕事であります、先ほど申しましたけど、まちづくりAnjioで事務局長をやらさせていただいており、いろんな方々と議論しておりますが、その中で活性化とは何かということが議論にあがります。人がたくさんみえてて、笑顔で歩いているとか、大勢人がうようよいと活性化しているなと誰もが感じるのだと思いますが、例えば図書館に1日何千人集まったとしても、通りに一人も歩いていなければ、活性化したとは言えない。日々4千人5千人集まるよといっても、通りに人が歩いていなければ活性化にならない。どれだけ魅力のある施設でも機能があるものでもクローズ的な空間であるならまちに効果が無い。逆にまちに迷惑な施設になるのではないか、もっと人が集まりやすい所に作ったほうがよかったのではないかということになり、何故作るのかの意味が、敢えて言いますが、不便なこの中心市街地のところにいい施設を作るのか。いつもよく言われているこの中心市街地が、安城の顔と言われているということで、おそらく、よそから来た人が安城の駅前のシーンをみて、このまちは元気のいいまちだなとか、このまちはちょっとやばいんじゃないかとかというイメージでですね、このまちに住みたい、働きたい、支店を、営業所を、事業所を出したいとか投資意欲を促すためには、やはり中心市街地の元気さが必要だろうと思います。

それからもう一つは、精神的な中心性ですね。今、我々は七夕の準備を一生懸命やっていますが、交流広場と呼んでいたところを今年から願い事広場と呼ぶことにしました。七夕まつりは安城市民にとっては願い事をする日だと、初めてのデートをする日でもあります、そういった願い事の聖地であるということで、これまでは、交流広場の七夕のメインの一つとして行ってきましたが、今、願い事広場として夜な夜なみんなで喧々譁々議論しています。もう一つは日本デンマークといわれてきた時代、先人達が開発してきた聖地、丸碧という産業組合があって、更生病院もその組合の病院であったと思いますが、そういった先人達が築き上げた安城のまちのルーツがあそこの場所である。この2つがですね、中心性をいかに守るか、安城市民としてのアイデンティティーを築いて、市民にとって誇りを持って、こういった安城市民ですよといえるものとしたい。

余り時間がございませんので、詳しくはお伝えできませんが、中心市街地拠点検討委員会のメンバーも今日ほぼ全員きてみえますが、やはりここで討議されているのは、施設にこういったものが欲しいというのは出てきますけれど、そもそも先ほどもありましたが、アクセスですね。入りやすく、止めやすく、出やすい駐車場、立体駐車場で大丈夫だろうか、お金がかかるけれど、地下に大きな駐車場が欲しいよね、とか。

また、もう一つは広場ですね。この広場がですね、先ほど坂田先生もおっしゃっていましたが、広場が市民が豊かに生活していくうえでは非常に重要だと、日本人は広場を使うことは上手ではないと言われていますが、ヨーロッパの都市の中心には、教会と必ず広場がある。とその周りにお店が並んでいて、ここでは、いろんな催し物が行われている。この広場を上手に使うことによって、まちと図書館のある施設が連動して、非常に快適な空間ができて、何か行きたくなる、そこに行くとか何かある、お店に行ったらそこのとっておきの商品がある、というような暮らしが出来る、お役に立てるような商店街のほうはあわせて頑張っていきたいと思います。

商店街側としてですが、もちろんシャッターの内側の活性化ですね。シャッター内側の改革を我々は力をあわせて1軒ずつやっていきたいと思っております。今までは商売のことは余計なお世話だと、これまではタブー視されてきた。そこの経営内容に突っ込むことはですね。でもみんなで力を合わせ、力を借りて頑張るぞと、まだまだ必要とされる商店街、必要とされる中心市街地を作っていく。

まだまだ会議も検討中ですが、そろそろ結論ができて、例えば民間事業者にプランを提案してもらってですね、コンペかどうかわかりませんが、事業者さんが計画を立てる時も我々の提案を入れていただけることをイメージしながら、そろそろ結論を出してまとめて市のほうに提出しようと思っておりますので、私はいつでもクリエーションプラザの方にはいますので、何かあったら、こうしたらというのがありましたらいつでも言いに来てください。以上でございます。ありがとうございました。

○勝田氏：そうしましたら、神谷市長のほうから中心市街地の活性化、まちを元気にするなどについて、6,7年経験した市長の立場から、今後の施策の中で、まちを元気にする、中心拠点はどうかあるべきかについてコメントをお願いします。

○市長：私のほうからは中心市街地の活性化の大きな方向性について話しをしたいと思います。私は昭和62年に市議会議員に初当選をいたしました。したがって更生病院の移転にかかわる流れについては、ある程度承知をしているつもりでございます。

そもそも更生病院が移転をする・しないという話がいつ頃出てきたかということ調べてみましたところ、平成7年3月議会でこの移転について話題が出てまいりました。それから実際に移転をいたしましたのは平成14年の春でございますので、話が出てから移転をするまで、約7年間かかっております。この間に更生病院は郊外に移転をするんだ、跡はどうするんだ、あれがいいこれがいいと色んな盛んな議論が交わされておまして、どんな世論にまとまっていくのかなと私なりに期待をしていたわけですが、色んな話が出てきたんでありますけれども、いずれも最終的にはまとまりを欠いてどこかに消えていってしまっていて、結局何の結論も出なかったという状況でありました。

何でなんだろうと今もその頃のことを振り返るんですが、まっ、これは想像なんです、更生病院は昭和10年戦前からそこにあったわけなんです。したがってオギャーともものついた頃から目の前にあって当たり前前の施設が、どこかへ行ってしまった後のことを想像しろといっても想像できる人が誰もいなかったんじゃないか。したがって現実味を持って危機意識を抱えていた人がなかなかおいでにならなかったんじゃないかと思うわけでありませう。

しかし現実に平成14年春に更生病院は郊外に移転してしまったわけで、その後どうなったのかということは先ほど申し上げたとおりでございます。一般の物販の店舗が成り立たなくなって、空き店舗が非常に増えてしまった。それと同時にそういったところに風俗店が入り込んでしまったというわけでありまして。そうしたまちの風景の変化をみて、いろいろな方がいろいろなことを言いました。あの頃はよかったな、更生病院があった頃はもっともっと色んな通りがたくさんあって活力があってよかった、という声を聞きました。

なるほど、そうかもしれないなと私も思ったんですけど、でもあの頃は本当にそんなによかったのだろうか、と振り返りますとそうでもなかったという気もするわけです。どういふことかと申しますとまず、更生病院があそこにあつて、多くの方が出入りしていたがために、常に駐車場が不足をしている状態でありまして、違法駐車があふれかえる、これが日常的風景だったと思います。その更生病院周辺のごった返した状況を嫌って、市街地の方々は、車で郊外の広い駐車場のある大手スーパーに買い物に行っておられた、という光景を私は思い起こすというわけでありまして。

したがって、真の中心市街地の活性化を考えるのであれば、そこに単に空き地があるから早く集客施設を作れというわけではなく、それも大事なんですけれども、まず、まち全体の環境を整備し、それと並行して拠点開発を進めていくと思ったわけでございます。核となるのは更生病院跡地だと私も思っておりますけれども、しかし、その周辺エリアは狭い道路と密集した老朽住宅がある地区でありますので、そういったところの環境整備も同時並行していかなければ真の活力に結びつかないのではないかと思うのであります。じゃあどうするのかと考へました時に、やはりそれは区画整理事業を導入して、面的に拠点だけではなくてその周辺もあわせて区画整理をして交通の問題や、或いは災害が発生した時の問題をクリアして拠点施設の建設を進めていくべきではないかと思っております。

市長に就任をいたしまして、これで6年以上が過ぎたと申しました。この間一体お前は何をしてきたのかと言われてしまいそうでもありますけれども、この区画整理事業の準備を進めてまいりました。地権者の方々の合意形成を進め、また、家屋移転をされる方々の相談に乗って、地道な積み重ねをして、ようやく南明治の第一と第二の区画整理事業が動き始めるところまでできました。で、区画整理事業地内はその事業で整備を進めていくわけでありましてけれども、そこから外れてしまったところはどうするんだということでもありますけれども、まっ、そういったところは個別の事業、例えば、電線の地中化事業によって、街路整備を進めていきたいと思っております。区画整理事業につきましては、現実問題として若干のご異論があることは承知をいたしております。まだまだ話し合いを尽くしていきたいと思っておりますけれども、しかし、拠点施設の整備に関して異議ありという方は殆どおみえにならないと思います。おそらく全市民の関心事であろうと思っておりますので、そこに暮らしておられる方々、全市民にとって、こういう施設があつてありがたいなあと感じていただけるような、そんな拠点施設を考えてみたいと思っております。以上です。

○勝田氏：ありがとうございました。5名の皆さん、それぞれ活躍されているところがございまして、それぞれの視点でのご意見をいただいております。今いただきました5名の方のご意見を私なりにまとめますと、中心市街地が衰退しますと郊外に住んだり、ショッピングセンターに買い物に行ったり、全国的にも同じような課題を持っているまちは非常に多いです。東京一極集中による地方の中心市街地にはかなり大きなダメージがあつて、その中でまちのみんながどうしたらもう一度活気が戻るのだろうか議論しているのが現状です。国や県も自治体など行政はどういった施策で期待に応えられるのだろうか模索している。ただ行政が考えることには限界がありますし、そこにお金を与えれば活性化するのか、というもので

も全くない。地域の方々が自分達で一生懸命考えどう立ち上がっていくのかが、どの自治体にも言えることなのかなと思います。

今皆さんからご意見いただいた中からキーワードを整理しますと、菅野さんからは、滞在型の図書館をつくり、そこに人が溜まればそこからまちに人が流れていく、そんな仕掛けができないだろうか。相島さんからは、官民連携をしていく、これによって活気を生み出していく。全体のまちづくりがよければ、商売も上手くいくだろうと、商売ありきでなくてまちづくりがあって商売が成り立つだろう。坂田さんからは、まちは学校だと、つまり学校という学びの場ではなく、まちで人が育っていく。その中で美しい風景とワクワク感をどのように具体的に作り上げていくか、それで人が育っていく。鶴田さんからは、精神的な中心性を作り上げていく、中心市街地を盛り上げていくというのは、精神性、アイデンティティを作っていく、それが地域に住み続ける誇りにつながって、また、まちが元気になっていく。市長については、政策として大きな環境首都を目標において、環境というのは今世界で一番大きな問題で、それも私の理解では学んでいくこと、どういう状況か、我々がどうすれば持続的な生活を行うのかということを考えていくと、にぎわっていくことと環境は別な話ではなくて、それが一つのテーマとして考えられるのではないかと思います。

時間もあと5分程となりましたので最後にですね、5人のみなさん、中心市街地の活気をどうしていくか、中心市街地を元気にしていく装置としての拠点というものを推進していくために、一つのキャッチフレーズなり応援メッセージなりをいただきたいと思います。

○坂田氏：言い足りなかったことを言うと、環境首都に相応しい安城市を作りましょう。そのためには、是非僕は広場文化に挑戦したい。是非あそこに広場を作って、そこへファーマーズマーケットなり、市場を作って、オープンカフェを作って、皆が集うような広場を作って、岡崎にもない、刈谷にも西尾にもない、そういう広場を是非、絶対作って欲しい。それから森を作って欲しい。せせらぎを作って欲しい。とにかく知の拠点をあそこに作る、と。そうすれば安城にあって、刈谷や西尾にはない、岡崎にはないという場所ができると僕は思っております。安城は音楽も強いし、文化センターの教室もたくさんあるし、そういうものが、皆で学ぶということができれば、賢い安城市民が来てくるように思います。この地域でリードしていけると思います。どっかがリードしていかなければ全体が上がっていかないので、是非安城にその役割を果たしていただきたいと思います。

もう一つは施設です。施設を作る時に大事なものは2つです。一つはこだわる人です。全国の、世界の図書館で成功しているのはこだわっている人がいるからだと思います。そこにこだわって仕事をしている、図書館が面白くて仕方ない、そういう人をスカウトしてくるのだと思います。そういう人がいなければ何を作ってもダメだと僕は思います。こだわる人に10年や15年任せるんだと、いうのが必要。もう一つは建物です。どんな建物を作るかはものすごい大きい、と、その建物を見に来るだけでも、歴史に残る建物を是非作りたい、作って欲しい。後世に残る、安城の2010年代の人達が、こんな建物を残したんだぞと、そういうもの、建物が魅力あるものならその中は自ずと変わってくると僕は思う。建物が貧弱で安っぽかったら、中身も安くなる、という気がしますので、是非お願いします。

○勝田氏：ありがとうございます。では続いて鶴田さんをお願いします。

○鶴田氏：こういうのが欲しいというのは山ほどあり、とても言い切れないですが、先ほども言いました中心性でありますけれども、安城市の七夕、日本デンマーク、そして新しいところで環境首都、それを象徴するランドマーク的な施設である必要は絶対あると思います。

もう一つは、先ほどは触れませんでしたでしたが自転車のまち、エコサイクルシティ計画もあり、

道路整備ですね。今は車中心の整備になっておりますが、本当に車中心でいいのかなど。この先50年後とかどうなっているかは想像できませんが、とりあえず今の利便性を叶えるためには駐車場の整備は大事なんですけれども、それ以上に歩いて暮らせるまちを目指していくのであれば、そういったところもキチンと考えていきたいと思っております。

駅前の電線地中化工事も終わって、これからどんどんですね、将来的に七夕エリアを電線の地中化をしていただいて、歩いていて気持ちいい、先ほど話をした風景もそうですけれども、何かブラブラしてみたいな、何かそういったまちがあつてよかつた、というふうなまちを作っていきたいと思っておりますのでご支援をよろしくお願いいたします。

○勝田氏：ありがとうございました。では菅野さんお願いします。

○菅野氏：先ほど新しい図書館の側面ばかりをご紹介させていただきましたけれども、要は図書館というのは、あらゆる人達がそこで情報を集め、知り、学んで次のまた何かの活動に活かしていただければいい場所であればいけないと思っております。そういった意味で滞在型と申しましたのは、そこでゆっくり本が読めることもそうです。そこでゆっくり調べ物を1日かけてできる。或いはそこで人々とコミュニケーションをとる場の必要もあると思っております。そういうために一体何が必要であるかといえば、ひと、もの、情報だと思っております。

先ほど坂田先生がおっしゃっていただきましたように優秀な情報スペシャリストを用意すること、それからそのためにモノとして、入れ物としての図書館のいろんなシステムや家具といったようなもの、最後にそういったものを集めてどう提供すればいいかについて、たくさん情報を集めることだと思います。委員会ではこれからそのことについて努力していきたいと思っておりますので、皆様のご支援をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○勝田氏：ありがとうございます。相島さん最後に応援メッセージをお願いします。

○相島氏：今日は本当にありがとうございました。お呼びいただきまして大変勉強になりました。

昼間現場を見させていただいたのと皆様のお話を聞いたことから、やはり、事業者のイメージからすると今回の物件につきましては、やはり、広場、坂田さんも鶴田さんもおっしゃっていましたが、これをポイントとしてどうおくか、それにあつた施設をどうおくか。

もう一つ、緑ですね。パッと私のフラッシュアイデアですけれども、有機的な広場と施設の連携と申しますか、イメージ的に言いますと、いい広場を包み込むような施設、こういったところがポイントになってくるのではないかと今日思いました。そういったことで皆さんでイメージを詰め込んで、キチンとしたプランを立てていけば、必ずや民間事業者も飛びつくようなものが出来るんじゃないかと思っております。大成功間違いなしじゃないかと思っておりますので、微力ながらも応援させていただきますので、これからは皆さん頑張ってください。ありがとうございました。

○勝田氏：ありがとうございました。では神谷市長応援メッセージをお願いします。

○市長：応援というか、図書館について何か私が弁解じみたことになっておりますがお話しさせていただきたいと思っておりますが、まああそこに図書館を作つてはという話が最初出た時に、いろいろな反応があつたことは私も承知しております。中には否定的なご意見もあつたように伺っております。実は私も例えばあそこに図書館を作るのはどうですか、と話があつた時に、何

で図書館なんだと、あるじゃないかと、まず直感的にそう思ってしまったわけでありまして。でもいろいろと今の中央図書館のことを調べてみますと、昭和60年に建設されております。無茶苦茶古いわけではありませんが、24年が経っております、建物としてはまだまだ機能するんですけども、昭和60年当時安城市がどういう状況であったかと調べてみますと、人口は13万人だったわけですね。したがって当時としては、人口15万都市になっても恥ずかしくないような図書館を作ろうとかなり頑張って立派な図書館を作られたんだと思うんですが、今や安城市の人口は18万人なんですね。

今、図書館はありますけれども、もしも無いと想定して、今、図書館を作ろうとした時に、私達は何万人を想定した図書館を作るかと考えますと、大方、20万人の人口があっても耐えられるような図書館を作ろうか、という話になってくるわけですね。今あるのは15万人想定 of 図書館で、今理想とされるのは20万人想定 of 図書館なんです。で今私達がお話しているのは、これから新たに20万人対応の大きなばかどかい図書館を作ろうということではないんです。少なくとも私はそうじゃないと思っております。今15万人規模に対応する図書館があそこにあるわけで、残りの5万人の機能不足をどこかで補えばいいんじゃないかという考えなんですね。

でどうするのか、あそこに図書館は残しておきます。で、こっちにも図書館を作ります。では向こうは何だというと、大量の蔵書がもうあるものですから、その書庫として、或いは資料庫として、引き続きそこを活用していく、新しい本とかITを活用する部分に関してはこちらの新しい図書館に機能を移しまして、閲覧、一般貸し出しは基本的に中心市街地、書庫と資料庫は向こうに分けて、2つを同時並行で引き続き使っていききたい、という考えであります。

ただ、こうした一部の機能の移転という考えでも、やはり建設には大きなコストを要することなので、その後の維持管理等々も含めまして、建設のあり方、いろんな手法があると思っておりますので、これから検討していきたいと思っております。なにぶんにも年間44万の入館者があるということなので、上手くそれを活用すれば、まちのにぎわいにつなげられるのではないかと考えております。現在では、まだ、市制60周年に着工という目標は断念いたしております。頑張っております。以上です。

○勝田氏：ありがとうございます。これでパネルディスカッションの方はまとめとさせていただきますけれども、私のほうから今日、これほど多くの方が集まっていたらちょっと想像しておりませんで、この活気ある会場の雰囲気そのものがですね、拠点施設を推進していく大きな力になるんじゃないかと思っております。それでは、パネルディスカッションについては、これで終了したいと思います。パネリストの方に拍手をお願いします。

以上